

1

JANUARY, 1983



Liberia Editrice Vaticana, Città del Vaticano の転載許可済
 ©1983 精道教育促進協会 (音屋)三・三四五二 芦屋市船戸町12-6

教皇様の叢

聖母への奉獻

誰にもまして深く、聖霊への奉獻を全うされた御母、どうか、教会がみずからの奉獻を最後までまっとうできるよう、お助けください。全被造物を解放するために(ローマ8・21参照)、教会が救いと聖性という得も言われぬ恵みを全人類の上に注ぐことができますように。

教会が与えられた使命を果たし始めたときから共に居てくださった聖母、どうか、教会のために取りなしをお願いいたします。教会が世界に広がり、あらゆる民にたえず教えを説き、やがて全被造物に福音を伝えることができますように。真理である神のみことば、そして愛の霊が、人々の心のなかに住居を得ることができまますように。真理と愛なくしては、充実した一生を送ることができないからです。

汚れなきご胎内に永遠のみことばを宿らせ、御子を世にもたらす恵みを得たとき、御身は聖霊の御力を深く悟られました。どうか、教

会のために、とりなしをお続けください。教会が、言葉、人種、文化の相違を乗り越えますように。この人類という家族に、水と霊による「新たな子供を次々と誕生させ」、「神の子となる能力」(ヨハネ1・12)を与えることができますように。

母として教会と深く結ばれた聖母、どうか、先頭に立って神の民を導き、信仰、希望、愛の道を歩ませてやってください。永遠の目的地を目指してさすらう私たちを、御身が十字架上の救い主からお受けになった愛で、包んでやってください。たとえ道を踏みはずすことがあっても、いつも、生きとし生けるもの母でいてください。善き牧者キリストが命の代償として得てくださった永遠の住居に、いつの日か私たち全員が揃って到着できますように。

キリストの神秘体にとって一致の支えである聖母、どうか、私たちに力をお貸しください。キリスト者の分裂の悲劇を心から痛む信

者すべてをお助けください。十字架とご死去の代償として御子が得てくださった真理と愛の霊に、無条件の忠誠を保ち、キリストの神秘体の完全な一致実現を私たちが絶えず目指してまいりますように。

常に仕える、を目標とされた聖母、御身は神の子の家族全体の母として、常に仕えてくださっています。聖霊は位階的、カリスティックなものを充分に与えて教会を豊かにしてくださいましたが、その教会のためにどうか取りなしをお願いいたします。聖霊が教え、第二バチカン公会議が取り入れた刷新への道を教会がたえず将来に向かって推し進めることができますように。刷新にあたっては、誤れる流れに欺かれることなく、神の国の到来にとって有益なものを時のしるしのなかからたゆみなく見分けて、真なるもの美なるもののみを受け入れることができますように。

人類の御母マリア、御身は人々の希望と苦しみをすべてご存知です。世界を揺り動かす善と悪、光と闇の戦いすべてを、母の心で感じとっておられます。聖霊のうちに御身になげかける私たちの叫びをお聞き入れください。御身を心から待ち望む人々を、母として主のはしめとての愛の心で抱擁してやってください。御身のお望みにこたえ、みずから奉獻せんとする人々をお受け入れください。本日、全人類を御身に奉獻いたしますが、彼ら全てに母としての愛に満ちた喜びとご保護をお恵みください。平和と自由、真理、正義、希望のときがすべての人々を訪れますように。「御宿り」の瞬間から汚れをすべて免れ、特別の聖性に恵まれた聖母、全被造物が、今まで嘆きつつ陣痛の苦しみにあっていること(ローマ8・21)をとりわけ強く感じておられる聖母よ、全被造物は「はかなきに服従させられたが、腐敗の奴隷から解放されることを希望しております」(ローマ8・20・21)御身は、「神の子らのあらわれ」(ローマ8・19)

が実現するよう絶えず貢献して下さっています。神の子らの喜びと自由にあずかるために(ローマ8・21参照)、「全被造物は切なるあこがれをもってそのあらわれを待って」いるのです。

イエズスの御母、今や御身は、教会の起源・象徴として、からだと霊魂ともども天国の栄光を帯びておられます。一方、教会はここ地上において、主の日の訪れまで(ペトロ後3・10)その完成を目指して歩み続けなければなりません。巡礼を続ける神の民のために、希望と慰めの確かなしるしとして、たえず光と輝きをお与えください。

神であらせられる聖霊よ、御父と御子と同じく、御身をあげ、たたえます。ナザレトのマリアは御身の花嫁であるとともに、救い主の母であります。その聖母のみ心を通して御身にささげる謙虚な奉獻のことはお受け入れください。教会もマリアを母と呼んでおります。聖霊降臨の日、高間で、教会は母としての召しだしを得ていると、教えてくださったのは聖母でありました。よろこびと苦労、希望と恐れのはざま、旅する教会が口にする叫びをお聞き入れください。ペンテコステの日、同じく高間で、教会は、御父と御子の霊でまします御身聖霊に永遠の奉獻を誓いました。その教会が、御身と共に、花婿キリストに向かって繰り返す、「おいでください」の叫び、謙遜と信頼にみちた委託のことは、ぜひお聞き入れください。

「霊と花嫁とは主イエズスに、「おいでください」という」(黙示録22・17参照)「こうして教会は、「御父と御子と聖霊との一致を基として、一つに集められた民」となる」のです。(『教会憲章』4)

ここに私たちは、寛容、仁慈、甘美にまします処女マリアの母としての取り次ぎを信じつつ、ふたたび「おいでください」とお願いいたします。(一九八二・二・八)

道徳的価値の衰退と

低下はすべてに及ぶ

自由の眞の意味とは

道徳教育には一定の規準があり、その規準を保つこと自体、重要なことです。というのは、道徳面の要求を無視した信仰や祈りがあり、倫理的に戸惑いまごついている信者さえいるからです。信仰に無関心な人々、誤った信仰を大事にしている人々は、道徳的原理の正しいあり方や基礎をはっきりと理解する必要がありま。『真理を行なう人が、神によって、そのことが行なわれる光の方に行く』(ヨハネ3・19、21参照)ことができるためなのです。それゆえ、善悪の判断の基準をはっきり規定する必要があります。

そのためには、いくつかの根本的な心構え、言いかえれば、何ものにもまして優先すべき信念が必要であり、それについて、道徳の向上に努めるよう求められている若者たち、そして全ての人々が納得する必要があるでしょう。たとえば、道徳と法律とは同一でないことをはっきり理解させなければなりません。しばしば誤った考えを証明するために使われるスローガンがありますが、そういうスローガンについては、正しい判断ができるように訓練しておかなければならないのです。真理とは多数決によって決まるものではないこと、また、真理というものは、世論調査や一般人の大部分の意見や態度でもないことを、納得させる努力が必要です。世論というものは模倣にすぎないことに気づかなければならないのです。同時に、そのときどきに生じる価値判断や望みに慎重に対処しなければなりません。

ん。主観主義や新実証主義に凝り固まった考えから抜け出して、自由にならねばならないのです。

とりわけ、自由の眞の意味を手ほどきしてやる必要があります。ここでいう自由とは、たしかに人間の尊厳の本質的な要素の一つではありませんが、それが目的ではないのです。自由とは、まことの善、客観的な善を責任あるやり方で獲得するための、手段であり、道徳のことです。放任的な考えによると、この健全な見方を覆えし、自由こそ絶対的なものであるかのように、自由そのものを求めてしまいます。従って、将来を担う人々は、責任ある自由の美しさとその必要性について学ばなければなりません。

とくに今日、富、権力、性的本能が、どれほど盲目的に崇拜されているか、また、人間の価値や人間同志のつながり、眞の意志の疎通がどれほど損なわれているかを、次代を担う人々に考えさせるのは大変有益なことです。若者たちが、物質主義や、当面の必要を満たすだけの消費社会の危険と限界に気づいてくれさえしたら、どんなにいいでしょう。自分の可能性を超えるほどの賞や、人間にふさわしく、また人間を救うことのできる奉仕や忠実などのねうちを知ってくれば、と願っています。このように基礎的な訓練がなされれば、一般道徳、またキリスト者の道徳の要求するところを、信頼と勇気をもって受け入れる道がひらかれるものと思います。ところでキリスト者の道徳とは、まず第一に、なににもまして神を愛すること、ついて神を愛する

がゆえに隣人を愛することなのです。(…)

心配の種

ゆるしの秘跡にあずかる人は、現在のところ、減る傾向にありますが、内容を見れば、確かにすこぶる真剣で熱意のあるあずかり方になっていきます。

しかしまた、告解の秘跡に、ある危機が迫っていることも認めなければなりません。多くの人は、もはやどのように罪を犯したかを意識していませんし、重大な罪を犯してしまっている可能性すら認めようとしません。まして、教会の代表者である神父に赦しを求め理由などわかるはずもないのです。告解はお決まりの手順をふんだ、精神の伴わない形式主義にすぎない、などを言い訳に、理屈をつけて告解の秘跡から遠ざかっている人もいます。そのほかにも、とうぜん驚きと不安にかられる原因となるものをみつけることができます。ある地域では、ご聖体を拝領する信者がずいぶん多いにもかかわらず、和解の秘跡にあずかっているのは、そのうちのほんの少数だけです。この点ではしっかりとした要理教育をして、信者がつねに罪の意識を保ち、聖体拝領の前にそれぞれが神と和解することがいかに必要であり大切であるかを、

理解させてやらねばなりません。そうしてこそ、罪の赦しからくる恵みと共にご聖体の恵みをうけて、キリストと、キリストの教会に一致することができるのですから。司祭の中には、少人数のうえにほかに仕事があるのだから、この種の聖務に多くの時間を費やすことはできない、と反対する人もいます。そういう司祭がたには、アルスの主任司祭の例を思いだしていただきたいと思えます。ありがたいことに、今日においても、いわば「告解場の修業」を続けている牧者が大勢いることを知っておいて欲しいのです。神の民全体に身を挺して仕えるべき私たちなのですから、神の民の一人ひとりに仕えるべきであると申しあげたい。

個別告解

共同回心式について、一言述べておきます。共同回心式の場合でも、罪の赦しを個人的に与える(個別赦免)なら、何がしかの進歩がみられることはご存知の通りです。信仰教育がしっかりとなされていけば、信者は自分の行ないのもつ社会的な面を発見するだけでなく、神と人との前で罪人である自分に気づき、共に感謝の心を神にあげるでしょう。(…)

ここで、よく注意すべきことがあります。

ヨハネ・パウロ二世

教皇様の敵

最近では、日本国内でも色々なメディアを通じてヨハネ・パウロ二世教皇様のニュースが、報道されるようになって参りました。しかし、教皇様ご自身によって発せられたお言葉や伝えるものは、なかなか見当たらないのが実情です。

この「教皇様の声」は、是非とも教皇様じきじきのお言葉に接したいという多くの方々の御要望にお応えして、世界各地でヨハネ・パウロ二世教皇様がなさった説教・講話、また教皇様の書かれた書簡などを、解説を加えずにそのまま日本語に訳して収録し、毎月皆様にお伝えするものです。

年間購読申込方法

- 毎月配布されている教会等では教会へお申込みください。(年間購読料720円)
- 個人でお申込の方は1,440円(年間購読料720円+送料720円)を郵便振替にてお送りください。2部以上ご希望の場合、下記の送料が必要です。

年間送料	2~4部	840円	5~8部	2,040円
	9~19部	2,880円		20部以上無料

【郵便振替 神戸3-72393 構道教育促進協会】

●第1号からの在庫があります。同時にお申込みください。

説教・講話・書簡等の抄記

信者、とくに若い人たちは、キリスト教的生
活の共同体的な面に心をうばわれて、きわめ
て重要な個人的な面を無視してしまいがちで
あるということです。これは一般赦免が与え
られる場合によく起こります。ご承知のと
おり、一般赦免は例外的な場合にのみ認められ
るものです。物理的にも精神的にも個別告解
が不可能で、しかも告解がどうしても必要な
ときにのみゆるめられているのです。したがっ
て、通常の告解の秘跡のかわりにすることは

キリストは私たちの靈魂の牧者であり番人
(ペトロ前2・25)、牧者のかしらであります。
私たちが今ここに集うのは司教職について
考え、その考えを、私たちがそのみ名におい
て司教職を果たす御方、つまり、主イエズス・
キリストを通して御父にささげるためです。
私たちの聖務に影響を与える要素と、神の民
の指導者として、解答を与えるべき事柄が数
多くあるのは確かです。しかも、このように
数多くの問題を眼前にひかえる現在という時
期は、同時に、平和と和解への配慮がことさ
らに私たちの心を占めているときでもありま
す。それゆえ、課せられた数多くの義務の重
さを一層強く感じると言えましょう。実に私
たちは和睦の聖務を負い(コリント後5・18)、
平和の福音を説くために召されているからです。
しかしながら、司教にとって大切なのは、
「イエズス・キリストの生きた印になる」こ
とであります。大司祭である主イエズス・キ
リストは司教を通して信じる人々の間に現存
する「第二バチカン公会議は述べています。
この基本的真理を理解すれば、私たち自身
について、また、聖性の必要性について、深
く洞察できるでしょう。司教職が超自然的に
どのような効力をもつか、それはひとえに司
教の聖性、つまり、一人ひとりが愛徳と恩寵
によってどの程度キリストと同一化しているか、
ということにかかっているのです。このよう

できません。それだけでなく、たとえ一般赦
免をうけても、一人ひとりの罪の告白(個別
告白)の義務が免除されたわけではないので
す。一般赦免によって大罪をゆるめられた場合
でも、赦しを受けるたびに個人的に罪の告白
をしなければなりません。罪を認めて初めて
赦されることは当然であり、事実これは、
告解の秘跡に不可欠な要素です。そこで私は
とくに強調しておきたいのです。一人ひとり
が自分の罪を認め、個人的に罪の赦しを得な

なわけで、聖パウロの招きを特に私たちへの招
きとつけとめるべきでしょう。「正義とまことの
聖徳において、神にかたどって造られた新し
い人を着なければならぬ。(エフェソ4・24)
私たちは、キリストと同じく、「改心を説く」
ため、公生活初期のイエズスの教え、「悔い改
めて、福音を信じなさい」を、こだまのよう
にひびかせ、人々に伝えなければならぬの
です。しかしながら、ここでもまた司教職の
効果をあげるかいは、恩寵を受けるため
に私たちがどれだけ心を開いているかで決ま

使徒職と聖性

ければならないと。個人的に赦しをうけると
いうことは、教義の面からも第一に必要なこ
とですが、それだけでなく、一人ひとりが罪
から解き放たれ立ち直ってゆく過程でもある
のです。個人的に罪をみとめ、赦しをうける
ことによって、自分の生き方を具体的に神へ
向けることになるからです。キリスト信者は、
共同体の一メンバーとしてのみ存在している
のではありません。信者は一個の人格であり、
さまざまな傾きや独自の問題をかかえていま

思いついてください。「私にとどまって、私
もまた彼らのうちにいるなら、その人は多く
の実を結ぶ。(ヨハネ15・5)
司教である私たちには、キリストの聖性を
黙想するよう求められています。私たちは、人
人はこれ以上を要求していません。私たちは、
聖性を目指して努力しなさいと教えますが、
信者の方々が希望し、また必要とするのは、
私たちがまず、聖性の証人となることです。
聖性に至る道の先導者となって、キリストへ
向かう道はどれであるかを、はっきりと示さ
なければなりません。聖ペトロのことはを借
りて言うなら、「群の模範(ペトロ前5・3)
となるべきなのです。つねに神と人々に仕え
る心構え、またキリスト教の最高の理想を目
指して生きる決心、このような点で人々を導
く模範となる必要があります。挑戦すべきこ
とが大きければ大きいほど、キリストがお与
えになる恩寵の力も強くなることを知ってお
きましょう。聖体礼拝において、光と力、喜
び、靈感、さらに聖性を指すための手段を
手に入れることができるでしょう。大司祭と

す。経歴や精神、誘惑や失敗、善悪の判断力
そして神と兄弟に対する責任感など、すべて
各人各様に異なった存在なのです。神の民は
画一的なメンバーからなる団体ではありません
。つまり、神の民の一人ひとり、神の御眼
に唯一無比の存在です。また司祭の眼からみ
ても、各信者は唯一無比であり、信者にとっ
てみれば、司祭は、神にかわって、父であり
師、同時に裁判官なのです。
(一九八二・四・二 フランス司教団へ)

して聖性の犠牲礼拝に集う人々の中心に立つ
とき、司教職の達成を目の当たりにすること
でしょう。
告解の秘跡にあずかれば、みなさん自身が
キリストとの触れ合いを新たにすることがで
きます。みなさんは、キリストのあわれみ深
い代表ですが、同時に、たえず悔い改め、聖
なる生活に戻るよう、キリストの招きをうけ
ておられるのです。そうすれば、今日の教会に
おいて、告解の秘跡がどれほど大切であるか
を、司祭と信徒に確信させることもできるで
しょう。祈りと悔悛の生活をすれば、救いと
永遠の命に達する秘義を、一層熱心に説き教
えることができるのです。「口は心にあふれ
るものを言葉に出すからである。(ルカ6・45)
司教職について考えるとき、私たちの生活
の中心はイエズス・キリストであることを決
して忘れないでください。「ご自分の仲間と
して、また宣教におくるために十二人をお定
めになった(ルカ3・14)のはキリストご自
身であります。
キリストと共にいること、キリストに連わ
されて福音をのべつたえること、これが私た
ちの受けた召し出しです。(…) 平和の元后、
教会の母、聖母マリアが、みなさん方の言葉
を通して御子イエズス・キリストのみ名を信
じる人々、そしてみなさん方自身のために、
おとりつきくださいますように。(六・一)

不変の教え

人間と仕事

客観的な観点から人間の仕事にどんな仕方でも番付けや評価が下せないとか、してはいけないとかいうわけではありません。働くことの価値の第一次の基礎は働く主体である人間自身だということだけです。このことは直ちに倫理的性格をもった大変重要な結論へとつながります。人間は働くように生まれていて、働くように呼ばれていることがどんなに真実であっても、まず第一に働くことは「人間のため」であって、人間が「仕事」のために居るのではないということです。この結論を通して、働くことの客観的意味よりも主体的意味が優先することを認めるのが当然だということになります。このように物事を考えるとして、その上で人の成し遂げる種々の仕事事大小の客観的価値を持つこともありうるとしても、それでもそれぞれの仕事は働く主体、つまり仕事を成し遂げる人間、人格の尊さの尺度によって評価されると、はっきり言っておきたいと思えます。他方において、人のする仕事とは別に、この仕事その人の活動の目的で、時には多く要求される目的だと仮定して、この目的というものはそれ自体決定的な意味を持つものではありません。事実、最後まで分析して見ると、仕事の目的は、人の成し遂げる仕事が必要な仕事であっても、任えるサービス業であっても、単調でつまらないとされたり一番疎外される仕事であっても、最終的にはいつも人間自身です。

キリストと共に

病に伏すみなさん、みなさん方は私の心のなかで特別の場をしておられます。人間的にみれば、弱く不運な存在ではありませんが、みなさんは十字架につけられたキリストに一致

して苦しみを忍び、教会を豊かにしてください。私にはキリストの中心となる秘義を宣言しているわけですが、私たちが救うために、召し使いの姿をとり、私たちと同じ人間となって、死それも十字架上の死に至るまで従順であられた神の御子の、信じ難いほどの秘義のことです。病に伏すみなさんはこの秘義にきわめて深くあずかっておられる。重い十字架をキリストと共に担い、病の苦しみを十字架の押しつぶされんばかりの苦しみに感じておられることになっておられます。しかし、その苦しみのおかげで、教会建設にあたって特権的な役割を果たすことをご存知でしょう。教会の発展と浄めという点で、みなさん方は他のだれにもできない貢献をしておられるのです。(…)

愛するみなさん

みなさん方の霊的なお力添えを頼りにしています。みなさんの苦しみは私の力です。苦しみのうちにキリストの十字架の力が働くからです。祈りと犠牲をささげて助けてください。心からありがとと申しあげ、みなさん方を私の胸に強く抱きしめたいと思えます。また、たえず深い思いやりの心でみなさん方をお世話して下さる方々にも感謝の意を表します。その方々にいのちを守るといふ偉大な使命をより一層深く心に感じてくださるようお願いいたします。身を挺していのちを守ること、健康と幸せと生きるよろこびを大勢の人々にとり戻させてあげること、—このような仕事ごとにより深く感じとってくだされば幸いです。みなさん方のお仕事を主がお助けになります。

すように。神の勇気をうけて、みなさんが倫理綱領を忠実に守り、医学の尊さを守ってくださいますように。主のみ名において、祝福を送ります。(一九八二・九・二十六)

人間味ある医学

腫瘍学に固有な技術の面はさておき、患者の親類縁者や医者、なかでも医者にとって常に問題となるのが、患者との親しい関係、ということになります。ガンについては、一般人にも専門家である医者にとって、その大部分が神秘にまつまれていると言えましょう。ガンの原因と治療についても同じことが言えます。よくご存知のように、精神的な打撃を受けている患者が大勢います。これから先、何が起

人間の尊さ

院などの医療スタッフの方々は言うまでもなく、とくに医者に関係のある義務であると言えます。

真の意味で人間的なものは、ことごとくキリスト教的なものと言える、これが教会の伝統的な考えです。みなさん方の医学をより一層人間味あふれる状態にし、患者とのしつかりとした絆を確立する、つまり単なる職業意識を越えて欲しいと思えます。患者は人知れずこのような絆を望んでいるのです。医者の中にある患者は、人間の尊厳をいささかも失わないどころか、それをしっかりと保っている存在なのです。不自由な体で苦しんでいるとは言え、実験の対象となるような無抵抗の存在ではありません。人間とは単なる物のように何かの対象となるのではなく、(自分の意志で行動する)主体的な存在ですから、主体性をもった人間としての扱いを受けるべきなのです。これが人間の尊さです。病に苦しむ人との関係、とくにガンで苦しんでいる人との関係をどうすべきか、これこそ、私の信じているところが本物であるかどうかの試金石になると思っています。

そもそも人間には、個人的な関係が必要で、患者は一臨床例ではありません。患者とはたまたま病に伏している一人の人間なのです。患者としては、確か効果的な治療を望んでいるのですが、それだけでなく、巧みに自信を与えようとする人の助けも期待しています。病に伏す人たちは、つつみ隠すことなく、自分の状態について話し合える人、ひいては、心から同情できる人を求めています。言うならば、「よろこぶ人とは共によろこべ、苦しむ人とは共に悲しみをわかち合え」(ローマ12・15)という聖パウロの勧めの実行ができる人が強く望まれているのです。

(一九八二・二・二十五)

『教皇様の声』ヨハネ・パウロ二世教皇の説教・書簡・講話などを解説なしにそのまま伝える月刊紙 毎月 十日発行 定価 一部六十円送料六十円
 ■一年予約七百二十円送料七百二十円 ■二十部以上の一括購入なら送料不要

替振 郵便 神 3-72393